

第 1 章

第 65 回

日米学生会議概要



第65回日米学生会議概要

「共鳴から生まれる新たな可能性～個から社会、今日から明日へ～」

-Share, Respect, Reflect: Reimagining the Future, Together-

第65回日米学生会議は、「共鳴から生まれる新たな可能性～個から社会、今日から未来へ～」を総合テーマとして掲げ、京都、長崎、岩手、東京の4都府県で開催される。

現在の日米関係は、沖縄米軍基地そのものを批判する地元住民と政府との軋轢や普天間基地移設問題の迷走により停滞しているが、その一方で日本の周辺海域においては、竹島や尖閣諸島などの領有権問題で政治的な緊張が高まっている。日本は、このように安全保障環境が急速に変容する中、アジア太平洋地域においてどのような役割を自ら果たし米国とともに平和と安定を構築していくべきなのか。また、同地域において、各国は、自由貿易の推進により低迷している経済浮揚を求め、2国間や多国間でFTA自由貿易協定やTPP環太平洋経済連携協定の交渉が進められている。日本は、これらの協定に参加し市場開放や規制緩和により、構造改革を推進していく必要があるのではないかと。規制に守られた国内産業や既得権益者の保護を続けるだけで、日本経済を再生することはできるのだろうか。急速に進展するグローバル化の中で、解決しなければならない課題は山積している。

そのような中開催される第65回日米学生会議では、今日のグローバル社会において、異文化と共生し共存するためにどのような資質や能力が必要なのか会議の様々なプログラムを通じて発見し認識することを目指

す。そのためには、まず一人一人が育ってきた環境や使用している言語、価値観に違いがあることを受け止め認め合うことから始まる。その際、意見の衝突や文化の違いによる葛藤もあるであろう。しかし、意見の違いを認めつつ、互いの考えを尊重し合うことで共鳴が生まれ、そこから新たな可能性を発見することができるのではないだろうか。これにより第65回日米学生会議が提起する様々な問題に対して解決策の糸口が見えてくるであろう。「個から社会」。個の考えや信念を出発点として、次代を担う学生が、日米関係や社会の礎を築く原動力となる。「今日から未来」。本会議のプログラム一つ一つから学び取る体験を今日の成果として、未来を築き上げる糧としていきたい。参加学生一人一人が、相互理解を通して異文化共存の国際社会の中で共に切磋琢磨し、人と人が絆で結ばれる社会の構築を目指し、果敢に挑戦していくことを期待する。

【主催】

一般財団法人国際教育振興会

【企画・運営】

第65回日米学生会議実行委員会

【会議開催期間】

2013年8月2日～2013年8月24日

【事業実施期間】

2013年4月1日～2014年3月31日

【開催地】

京都-長崎-岩手-東京

本会議におけるプログラム

《分科会（略称 RT）》

本会議において活動の中心となる分科会は7つ設けられており、日米双方5名ずつの学生（実行委員1名を含む）が、本会議期間中を通じて議論を重ねることとなる。事前活動に加え、本会議中もフィールドトリップで関連機関や専門家を訪問するなど、議論の質の向上を目指す努力が続けられる。第65回会議における分科会は以下の通りである。

(1) Regional Security in a Global Era

アジア太平洋地域における日米安全保障

(2) Globalization and Agriculture in the 21st Century

グローバル化と食の安全保障

(3) Social Responsibility and Government

市民と政府の役割と責任

(4) Modern Issues in Education

現代における日米両国の教育問題

(5) Environment and Society

環境問題と社会

(6) Social Minorities and Discrimination

マイノリティと差別

(7) Culture and Technology

情報技術と文化

《Field Trip》

分科会の議題や各開催地に対する理解を深めることを目的に、政府機関、国際機関、企業、大学、NGO、NPO 及び研究所などへ訪問研修を実施する。事前活動におけるものと同様に、社会と直接関わることができる貴重な機会であり、現場や現状を知り、

議論に必要な具体的視点を得るための重要な活動となる。

《Special Topics》

同年代の学生である参加者が、個々の関心に沿った議題を自由に設定し、多角的な議論を行うことを目的としている。また参加者の主体的、自発的な参加により、問題発見及び議題設定能力を養うと同時に、より広い参加者同士の交流を促し、新たな視点や発想を得ることで、会議をより充実させることも求められる。

《Conference Wide Reflection》

参加者が一同に集い、1ヵ月の共同生活や、会議中に感じるであろう、議論の違いから生まれる悩みなどを自由に話し合う。参加者自身が心を開き、自ら思うことを率直に語り合うことによって、それぞれの中に「共鳴」が生まれ、相互理解のための手助けとなることを期待している。また、他者を理解する場を通して、より充実した会議に向けての姿勢が参加者の中に生まれることを目的としている。

《Final Forum》

最終開催地において行われるファイナルフォーラムでは、1ヵ月の総まとめを行う。主として分科会における議論の概容を発表することにより、現代社会が抱える問題とそれに対する学生なりの見解や視点を第65回日米学生会議において得られた会議の成果として社会に発信する。

第65回日米学生会議参加者名簿

日本側実行委員	大学	学部・専攻	学年	RT
竹内 正人	東京藝術大学大学院	映像研究科メディア映像専攻	M1	—
川野 さりあ	順天堂大学	医学部 医学科	4年	教育
飯島 千咲	国際基督教大学	教養学部 アーツ・サイエンス学科	3年	安保
市毛 裕史	国際基督教大学	教養学部 アーツ・サイエンス学科	3年	差別
野口 ゆかり	慶應義塾大学	法学部 法律学科	3年	市民
Vu Hoang Minh	東海大学	教養学部 国際学科	4年	情報
森田 修弘	慶應義塾大学	法学部 法律学科	3年	環境
横田 真彩	筑波大学	社会・国際学群 国際総合学類	3年	食
日本側参加者	大学	学部・専攻	学年	RT
荒木 尊士	大阪府立大学大学院	工学研究科	M1	食
伊井 佐織	慶應義塾大学	経済学部	3年	情報
伊藤 孝真	京都大学	経済学部 経済経営学科	4年	教育
上江洲 仁美	慶應義塾大学	総合政策学部	1年	食
大西 由起	同志社大学	スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科	4年	教育
大沼 雄貴	東海大学	教養学部 国際学科	4年	市民
大野 峻典	東京大学	教養学部 理科二類	2年	差別
大日方 望	国際基督教大学	教養学部 アーツ・サイエンス学科	3年	差別
兼子 莉李那	上智大学	国際教養学部 国際教養学科	3年	差別
川口 真	東京大学	教養学部 文科一類	2年	市民
木村 優吾	早稲田大学	政治経済学部 国際政治経済学科	2年	食
小林 薫子	慶應義塾大学	法学部 政治学科	2年	環境
小松崎 遥平	慶應義塾大学	法学部 法律学科	3年	教育
古村 大和	国際教養大学	国際教養学部 グローバルビジネス科	2年	市民
白畑 春来	東京大学	工学部 化学システム工学科	3年	環境
鈴木 健司	立命館大学	法学部 法学科	3年	環境
鈴木 悠司	東京大学	理学部 物理学科	3年	情報
関口 響	法政大学	経営学部 経営戦略学科	2年	情報
中澤 彩	東京大学	法学部	3年	食
中村 優太	西南学院大学	法学部 法律学科	3年	安保
野口 真央	慶應義塾大学	法学部 政治学科	2年	市民
橋本 萌	慶應義塾大学	法学部 政治学科	2年	差別
浜田 りん	青山学院大学	国際政治経済学部 国際政治学科	2年	教育
三科 圭介	琉球大学	観光産業科学部 観光科学科	3年	情報
森 泰子	慶應義塾大学	経済学部	2年	安保
吉井 拓真	岡山大学	医学部 医学科	4年	安保
吉田 知史	同志社大学大学院	法学研究科 政治学専攻	M1	安保

安保＝アジア太平洋地域における日米安全保障、教育＝現代における日米両国の教育問題、市民＝市民と政府の役割と責任
 食＝グローバル化と食の安全保障、情報＝情報技術と文化、環境＝環境問題と社会、差別＝マイノリティーと差別

第65回日米学生会議参加者名簿

<u>アメリカ側実行委員</u>	<u>大学</u>	<u>学部・専攻</u>	<u>学年</u>	<u>RT</u>
Paul Yarabe	Harvard University	Molecular and Cellular Biology	4	Chair
Nobuko Masuno	University of California–Berkeley	Psychology	3	Culture
Cruz Arroyo	Haverford College	English	2	Education
Santiago Cruz	Cornell University	Government	3	SR
Katherine Jordan	Wellesley College	French and Japanese	2	Minorities
Madison Mears	University of Wisconsin–Madison	Japanese	2	Environment
Patrick Meuer	Edgewood College	History	4	Security
So Nakayama	Macalester College	Economics and Asian Studies	3	Food
<u>アメリカ側参加者</u>	<u>大学</u>	<u>学部・専攻</u>	<u>学年</u>	<u>RT</u>
Dylan Adelman	Skidmore College	Asian Studies, Religious Studies	4	Education
Emily Aiken	University of Oklahoma	Chemical Biosciences	2	Food
Feruz Azimova	University of Hawaii at Manoa	History	1	Minorities
Daniel Bateyko	Middlebury College	Undeclared (International Studies)	1	Environment
Karim Boyd	Villanova University	Physics	1	Environment
John Burke	Toyo University, University of Alabama	Japanese/International Business	3	Food
Kelly Cargos	Macalester College	Japanese Language & Culture; Psychology	4	Culture
Jee Eun Choi	Haverford College	Biology	2	Education
Sora Choi	Michigan State University	English/Japanese secondary education	3	Minorities
Michael Fitzgerald	Florida State University	International Affairs	3	Security
Pramodh Ganapathy	Duke University	Asian and Middle Eastern Studies	3	Minorities
James Kashima	University of Washington	Economics	3	Education
Drew Korschun	Duke University	Asian and Middle East Studies & Linguistics	1	Culture
Pin-Pin 'Alice' Liao	Villanova University	International Business/Management	1	SR
Sharon Lu	University of Wisconsin–Madison	Biology–Neurobiology Option	3	Minorities
John McCallum	Harvard University	Economics	1	SR
Paxton Misra	Smith College	Economics	2	Food
Norihito Naka	Tufts University	International Relations	1	SR
Bao–Quyên Nguyen	Smith College	Psychology	1	Culture
Brooke Nowakowski	Harvard College	East Asian Studies	1	Security
Yuki Numata	Pomona College	Undeclared (International Relations)	1	Environment
Robert Panis	Villanova University	Economics and Accounting	1	Culture
Miho Sakuma	Williams College	Liberal Arts	2	Education
Ryota Sekine	University of Chicago	Biological Sciences	4	Environment
Haley Sweeton	University of Maryland Baltimore County	Information Systems	1	Food
Jeffrey Yamashita	University of California–Berkeley	Comparative Ethnic Studies	4	Security
Ayaka Yoshida	Northwestern University	Undecided/Clarinet Performance (BM)	1	SR
Xiange Zeng	Johns Hopkins University	International Studies/ East Asian Studies	1	Security

内閣総理大臣からのメッセージ

第65回日米学生会議の開催を心からお祝い申し上げます。

日米学生会議は、1934年の開始以来、これまで80年近くにわたり、日米両国の学生の企画・運営により活動が続けてきた非常に歴史ある会議です。日米学生会議が脈々と歴史をつなぎ、両国の学生間の相互理解と友情の促進に大きく寄与してきたことを非常に喜ばしく思っています。私は、官房副長官であった2003年に、この日米学生会議に参加しました。世界の平和と繁栄のために役立ちたいとする若い皆さんの情熱や高い意識に感銘を受けたことを鮮明に覚えています。

言うまでもなく、日米同盟は我が国外交の基軸です。日米両国は、自由、民主主義、基本的人権、法の支配などの普遍的価値を共有し、国際社会が直面している様々な課題に協力して取り組んでいく関係にあります。私は本年1月に訪米し、オバマ大統領との間で、両国の強い絆を再確認しました。日米同盟の礎は人と人との交流です。その中でも特に若者の交流が重要だと考えています。

本年の日米学生会議のテーマは、「共鳴から生まれる新たな可能性～個から社会、今日から未来へ～」-Share, Respect, Reflect: Reimagining the Future, Together」と伺っています。両国の若い世代が幅広いテーマについて活発に議論し、まさに共鳴し合うことを通じて、有意義な提言が次々生まれてくることを大いに期待しています。

この日米学生会議を通じて、日米の若者の交流が更に大きく広がることを確信しています。そして、その次のステップとして、日米双方で学ぶ留学生が増加することを期待しています。残念ながら米国への日本人留学生は近年減少し続けていますが、しかし、この学生会議での議論や共鳴が、双方の留学生の増加を後押しする力になるものと期待します。

日米両国の未来を担うのは、皆さんを含めた両国の若者たちです。この会議が実り多いものとなり、末永い友情が生まれ、将来の日米関係の発展を支えていただけるよう心から祈念します。

平成25年8月3日
日本国内閣総理大臣
安倍 晋三

【沖縄自主研修】

- 2013年6月23日 「県内学生沖縄学ぶ 日米学生会議事前勉強会 統治や基地問題」 (沖縄タイムス)
 2013年6月23日 「県内外学生、日米学生会議を前に沖縄学ぶ」 (47NEWS)
 2013年6月24日 「歴史継承を実感『日米学生会議』参加者」 (琉球新報)
 2013年7月3日 「日米学生会議の参加者がキャンプ・フォスターを見学」 (米国海兵隊公式サイト)

【京都】

- 2013年8月8日 「学生紡ぐ 日米の絆 京の舞台で意見交わす」 (朝日新聞)

【長崎】

- 2013年7月4日 YOMIURI ONLINE 「県内26年ぶり 日米学生会議」 (読売新聞)
 2013年7月5日 長崎新聞ホームページ【県内トピックス】「長崎で安保も学びたい」 (長崎新聞)
 2013年7月 facebook 長崎市国際課 Nagasaki City International Affairs Division
 「第65回日米学生会議実行委員会の市長表敬訪問」(長崎市国際課)

【岩手】

- 2013年3月14日 「本県の復興発信へ抱負」 (岩手日報)
 2013年3月15日 「日米学生会議 本県で初開催」 (読売新聞)
 2013年3月 「日米学生会議 8月に岩手で初開催」 (NNN ニュース/テレビ岩手)
 2013年5月7日 「第65回日米学生会議 in 岩手『ホームステイプログラム』ホストファミリー大募集」 (岩手県国際交流協会)
 2013年8月2日 「知事講演会開催のお知らせ」 (岩手県 NPO・文化国際課)
 2013年8月13日 「日米の若者復興に関心 学生会議本県日程開始 達増知事が講演」 (岩手日報)
 2013年8月14日 「震災復興の現状学ぶ 日米学生会議始まる 盛岡でレセプション」 (岩手日日新聞社)
 2013年8月14日 「日米学生会議被災市で開催」 (NNN ニュース)
 2013年8月15日 「日米学生会議『復興』刻む」 (岩手日報)
 2013年8月15日 「被災地の現実忘れない 日米学生が宮古を訪問」 (岩手日報 Web News)
 2013年8月18日 「日米学生会議が本県で開催 復興や地域活性化を議論」 (盛岡タイムス)
 2013年8月18日 「日米学生 岩手に提言 盛岡で地域活性化フォーラム」 (岩手日報)
 2013年8月18日 「『岩手の魅力化』日米学生が提言 盛岡でフォーラム」
 (岩手日報 Web News/47NEWS)
 2013年9月2日 「平和への祈りを込めて～日米学生会議～」
 (IBC テレビ 県政番組「いわて希望の一步」)
 2013年9月16日 「2013日米学生会議、岩手で開催」 (TOMODACHI)

【東京】

- 2013年8月22日 「ジョン・マケイン(76)米上院軍事委筆頭理事 4年ぶり来日「大義に尽くすことが最大の満足」 (産経ニュース)

【その他】

- 2012年11月
 「第65回日米学生会議実行委員長に、本学環境学部4年 竹内正人さんが選任されました。」
http://www.musashino-u.ac.jp/guide/profile/news/2012/121227_01.html
 (武蔵野大学ホームページ ニュースリリース)

- 2012年12月27日 武蔵野大学 企画・広報課
https://twitter.com/musashino_univ/status/284235278154072064
 (Twitter)

- 2013年8月12日 すみだ地域団体活動情報 いっしょにネット すみだ食育館 食育通信
 「第70号 ★第65回日米学生会議に出席する学生との懇談会★」
http://www.sumida25.net/syokuiku_news70.html

Conference Song

作詞 Marguerite Hollingworth(Jasc 1/2)
作曲 Charles M.H.Hall(Jasc 1/2)
編曲 吉田 珠美
混成三部合唱のための編曲 玉田 元康

Soprano
Alto
Tenor

Shake hands firm hands far a -
Shake hands firm hands far a -
Shake hands firm hands far a -

6
S
A
T
cross the sea I'll say kon - nichi - wa to
cross the sea I'll say kon - nichi - wa to
cross the sea I'll say kon - nichi - wa to

11
S
A
T
you You say he - llo - to me
you You say he - llo - to me
you You say he - llo - to me

16
S
A
T
Bow low sow low
Bow low sow low
Bow low sow low

Conference Song

21
S
A
T
show us how it's done Let stars and
show us how it's done Let stars and
show us how it's done Let stars and

26
S
A
T
stripes fly side by side With the Flag of the
stripes fly side by side With the Flag of the
stripes fly side by side With the Flag of the

31
S
A
T
Ris - ing Sun
Ris - ing Sun
Ris - ing Sun